

アジアの奇跡・カンボジア

カンボジアレポートvol.①

基本知識編





目次

- 1、カンボジア基本情報
- 2、カンボジア経済発展の要因
- 3、近代都市化するプノンペン
- 4、経済発展の鍵：「マスタープラン」
- 5、カンボジア政府による外国へのプレゼンテーション
- 6、これからのカンボジア発展データ

はじめに

こんにちは、スタンレー・よっしーです。

今回のレポートは、アジアの奇跡カンボジア
カンボジアレポートシリーズ Vol①「基本知識編」となります。

さて、カンボジアと聞くとどんなイメージでしょうか？

多くの人は、内戦や地雷などを想像されるようですが、それは昔の話です。

今のカンボジアは、経済を底上げするために、国が先頭に立って「マスタープラン」を実行しています。

そのため世界中から投資マネーや支援が投入されて、首都プノンペンや第二都市は、開発されて近代化の道を辿っています。

今回のレポートでは、そんなカンボジアに投資するための基本的な知識や研究機関により発表されている「これからのカンボジア」について抜粋していますので、ぜひ、参考にして下さい。

お知らせ

カンボジアレポートシリーズ vol.②以降については、出来上がり次第メルマガで配信して行きますので、ぜひ、お楽しみにしておいて下さい。

1,カンボジア基本情報

- ・面積：18.1 万平方キロメートル(日本の約 2 分の 1 弱)
- ・人口：1800 万人
- ・首都：プノンペン（人口は約190万人）
- ・人口：90%がカンボジア人(クメール人)とされている。
- ・言語：クメール語 英語
- ・通貨：US ドルが主流 自国通貨はリエル

最低賃金の推移

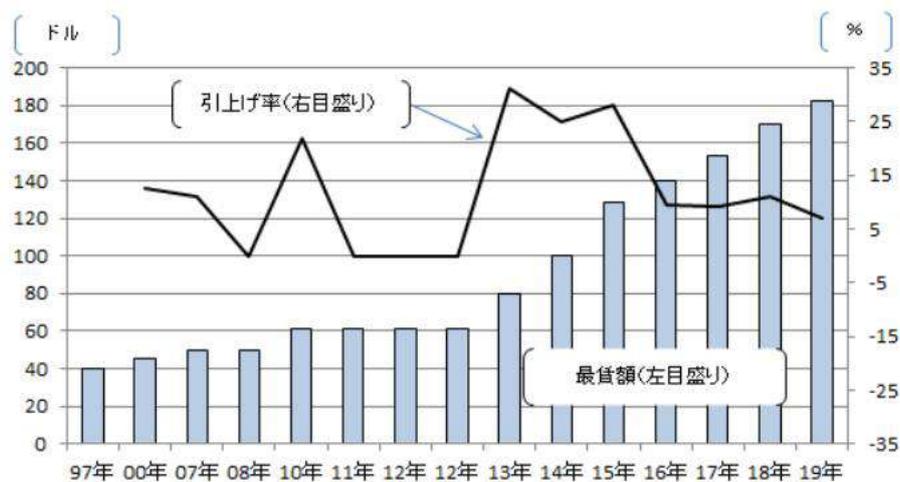
2012 年の月額 61 ドルから、2013 年以降急速に上昇しています。

2015 年の最低賃金は月額 128 ドルと過去 3 年で 2 倍になっています。

2016 年 140 ドル 2017 年 153 ドル 2018 年 170 ドル

2019 年 182 ドル 2020 年 190 ドル(予定)

図表1:最賃額と引上げ割合の推移(1997年～2019年)



出所：政府発表資料より作成

2,カンボジア経済発展の要因

豊富な労働人口

GDPは年間平均7%前後で推移しています。国外の企業を誘致して、雇用創出を行っているため国力が上がってきています。

そのため自然に生活に関する需要が高まってきますし、特に不動産、住宅関連は大きな需要が見込めます。

このような背景を見ると、これから伸びる国ということがわかります。



これからの人口増加予測

今後、カンボジア国内では、首都、第二都市などに人口が集中してきます。

そのはじめとして、首都プノンペン、第二の都市シアヌークビルに人口が集中しつつあります。そのため、同エリアでは、急速な開発が進んでいます。

中国政府とカンボジア政府

2018年3月ごろに、政府の発表では「年間10万人程度の中国人を受け入れる」ことが決まったと発表がありました。

この大半がプノンペンに住むことになります。

そのため、プノンペン北部に「ガーデンシティ開発」が進められています。

規模は2000ヘクタール（東京ドーム約425個分）

そのうち4分の1が「チャイナタウン」になるという大きな開発です。

3,近代都市化するプノンペン

現在、プノンペン市内では、至る所で開発を見ることができます。

2012年頃のプノンペン市内の風景です。当時は東横インが一番高いビルでした。



2019年現在のプノンペン市内の様子 東横インが小さく見えます。



首都でありながら高層ビルが少なかったプノンペンは、近代都市化しつつあります。そんな風景を見ると街が発展していることがわかります。

2019年～2020年にかけて中国企業 HUAWEI により 5G がスタートして、スマートシティ計画が始まります。

東部ニューエリアより望むプノンペン市内

2014年頃



2017年末



次々に完成していくショッピングモールやコンドミニアム



イオン 1、2 があり、
2号店はアジア最大の大きさを誇ります。
現在、南部に3号店が建設されています。



4,経済発展の鍵：「マスタープラン」

現在、プノンペンが近代都市化されていることやカンボジア経済が発展している背景は、カンボジア政府が進める経済発展政策に基づいています。

プノンペンにおける「マスタープラン」の具体的な内容

プノンペンの中心地である王宮より半径 30 キロ圏内を開発する。

(王宮が都市の中心という考えに基づいた開発となる)

首都プノンペンの規模を拡大、東西南北各エリアを副都心化する。

- ・北部：ガーデンシティ開発（チャイナタウン）
- ・南部：大手デベロッパーING 社によるカンボジア人向けの近代エリア。
- ・西部：物流、流通を中心としたエリア。新空港も西部に予定されている。
- ・東部：カンボジア経済を支える大多数の中所得層から労働者層に向けた街創りが行われてる。

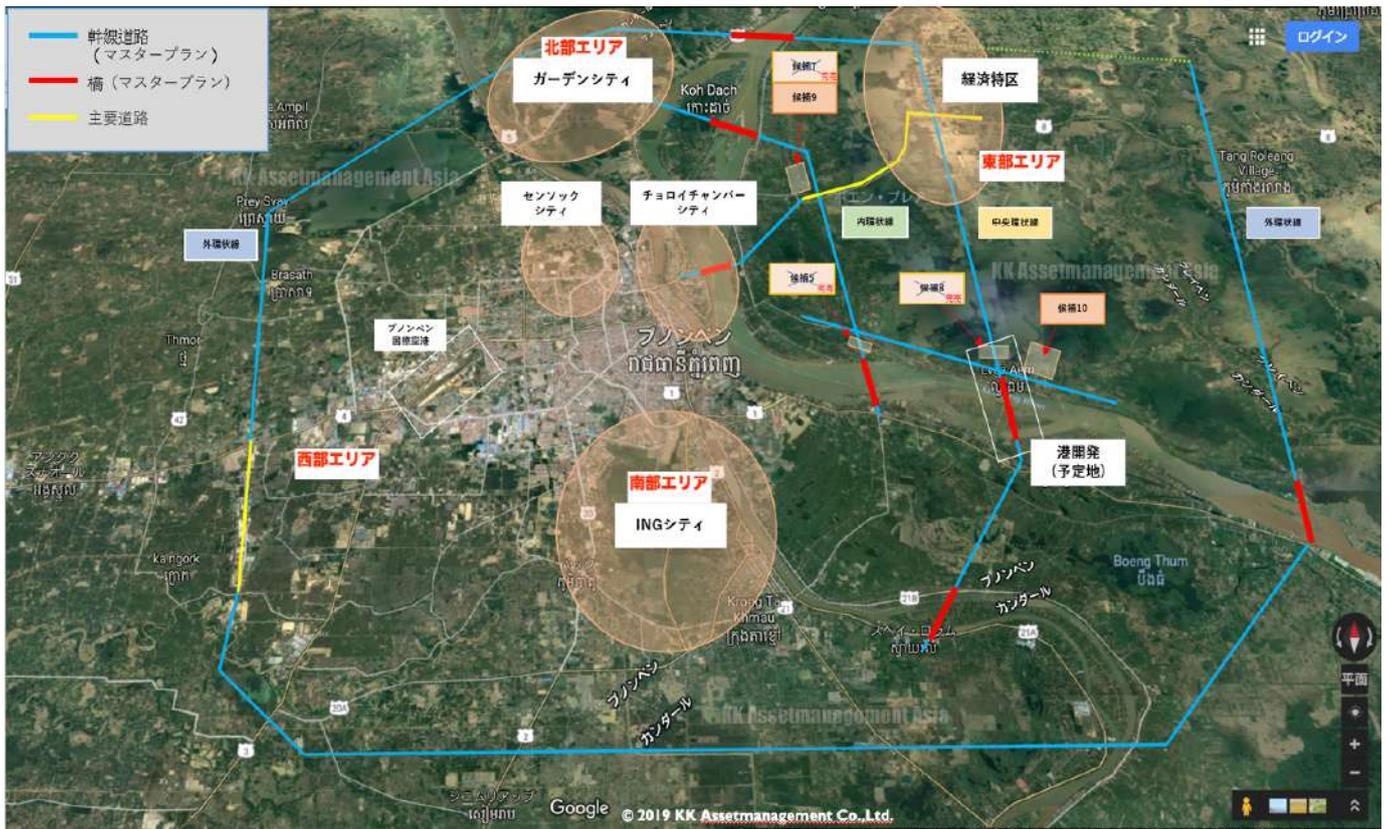
各エリアを結ぶ「環状線計画」

内・中・外環状線で繋ぎ、首都プノンペンとの経済動線ができる。

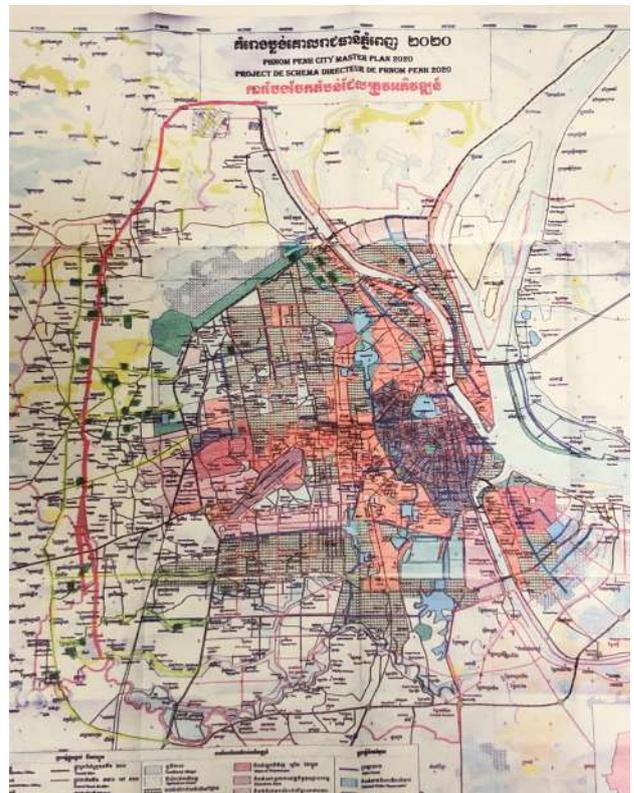
環状線には、国道（道路幅 30m）モノレールが開通するためプノンペンとのアクセスが便利になる。

効果

- ・新しい経済圏をつくる。
- ・人口の集中化を図るため特に中流以下の層が住みやすい街を創る。
- ・公共交通機関を増加させることで渋滞を減らし交通弱者をなくす。
- ・労働環境を整えることで国民の生活を安定させる。



2012年度版マスタープラン地図
 2020年に向けて作られています。
 写真は、政府内で配布されている
 実際のマスタープラン地図です。
 細かく色分けされた部分を、
 それぞれの機能を持った開発が
 行われてます。
 実際に計画以上のペースで進んで
 います。



5,カンボジア政府による外国へのプレゼンテーション

カンボジア政府は、外国に対して支援や投資のプレゼンテーションを行っています。現在、圧倒的にカンボジアに投資をしている国は中国ですが、その理由は、カンボジアが「一帯一路構想」の必要な拠点だからです。

中国の四川で開催された「一帯一路構想」フォーラムでのカンボジア政府によるプレゼンテーション。(ちなみにプレゼンしている人はチャリティ仲間)



プノンペン市内と近郊エリアの開発計画を説明する様子。

ピンク色の線は、
外環状線
東部エリアに架かる橋の位置
中国資本により建設されます。



メモ

カンボジア国内の道路の舗装や新設の費用に関しては、中国が80%を負担しているようです。

6,これからのカンボジア発展データ

複数の研究機関により「今後のカンボジアの発展データ」が発表されています。主なデータをまとめてみました。

2019年：プノンペンに「オークラ・プレステージプノンペン」を着工する。
プノンペン市内チュロイチャンバーエリア

2019年：プノンペン市内に建設されている大型プロジェクト「ザ・ブリッジ」がオープンする。

2020年：プノンペン市内に建設される大型プロジェクト「ザ・ピーク」が完成する。シャングリラホテルが開業する。

2020年：カンボジアのスマートシティ化計画が始まる。まずはプノンペンから

2020年：人口 ベトナムのベトナムーカンボジア国境地域10省の人口が約1651万人に達する。

2020年：「アジア総合開発計画」を推進する東アジア首脳会議16カ国が、9000万ドルを投じてタイーカンボジア間に橋梁を設置する

2020年：中国、カンボジア、ラオス、ミャンマー、タイ、ベトナムの6カ国が共同で、メコン川流域に鉄道網を建設する（流域人口は3億人）

2020年：カンボジアを訪問する外国人旅行者が年間750万人に達する（従来目標の700万人を上方修正）

2020年：カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムで構成される新興メコン（CLMV）の国内総生産（GDP）が、2013年比で92%成長する。

これは2012年に日本から提案された構想。

2020年：この年までに米国ホテル大手「ヒルトンホテル・プノンペン」が開業する。

2022年：国内の電力大手2社が、この年までカンボジアの送配電、変電などをコンサルティングする。これは東京電力と中部電力。

2026年：高層マンション、多目的競技場の建設を含むカンボジア、プノンペン郊外の都市開発事業が、人口4万人規模の衛星都市に成長する（総事業費は16億ドル）これはプノンペン北部のガーデンシティ開発のこと。

2030年：ベトナムのベトナムーカンボジア国境地域10省の経済力が、同国中部、南部に肩をならべる

2030年：この年までに、中国政府が「プノンペン国際新空港計画」として世界最大規模の空港建設計画を進める。着工は2030年以降、現空港位置より30キロ～50キロ南下した位置に予定。

2030年：カンボジアが中所得国の上位に位置する（ASEAN加盟は1999年）

2030年：中国、ベトナム、カンボジアを結ぶ新しい経済回廊が整備される

2030年：カンボジアの住宅建設需要が、110万世帯の規模に拡大する

2050年：カンボジアが先進国の仲間入りを果たす。

最後に、この流れを見ていくと、現在のカンボジアは、戦後から高度成長に入ろうとしていた日本と同じ状況です。そのため、まだまだカンボジアの発展は進むでしょう。